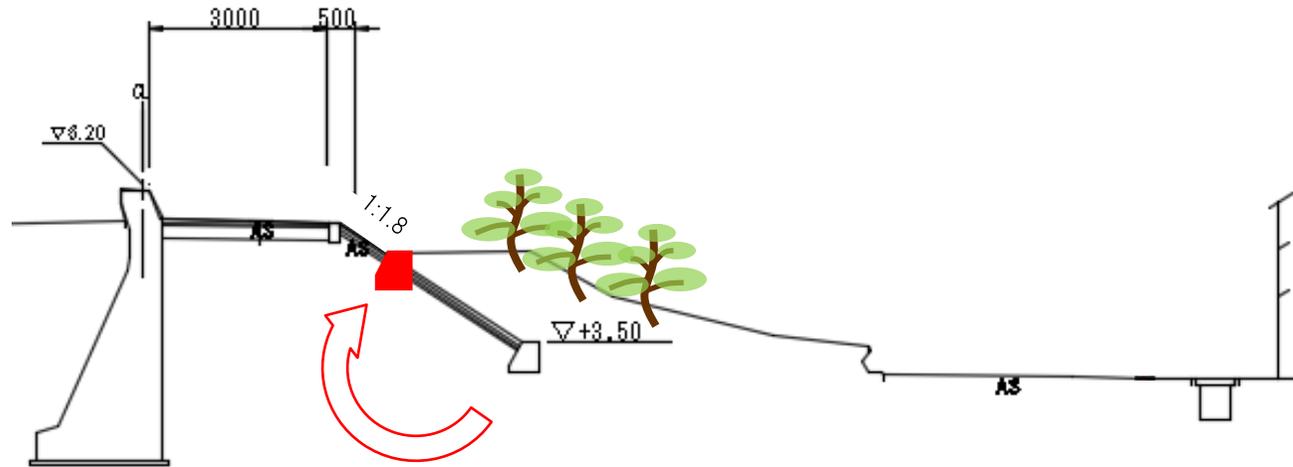


# 【報告】 A区間にて、基礎位置の高い箇所を確認

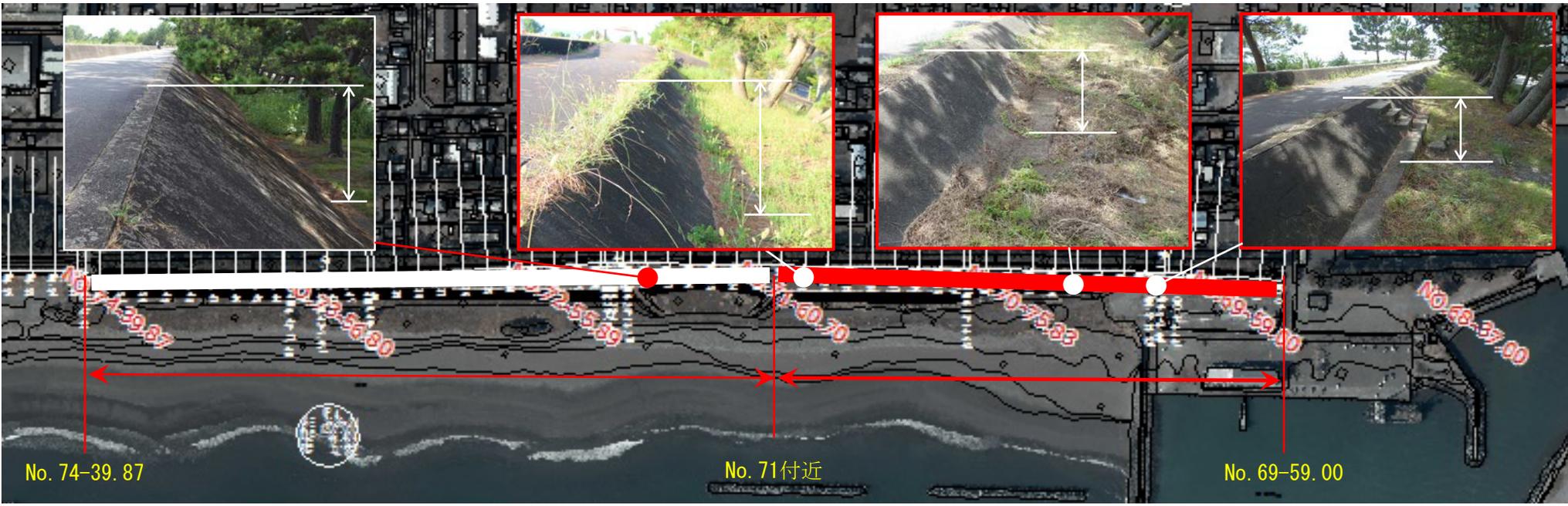
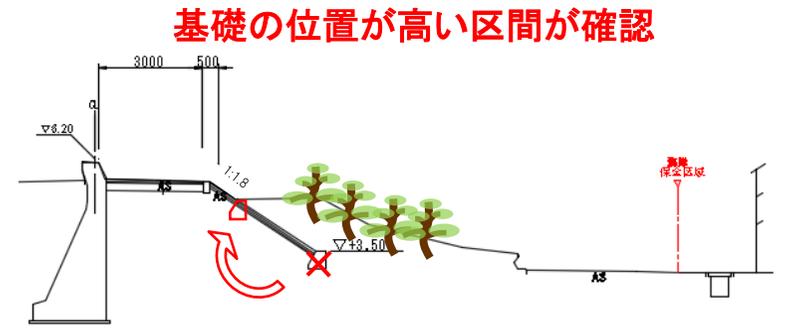
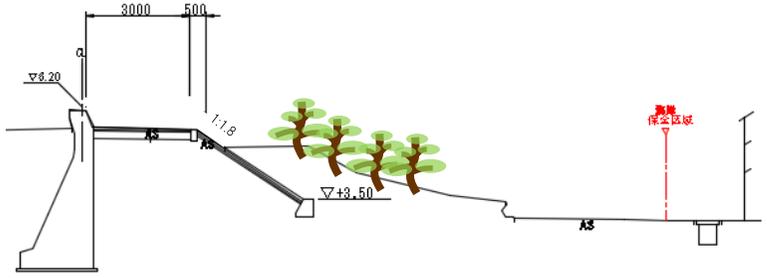




事前説明後、現地確認を実施したところ、A区間において、これまで、検討・実験をしてきた基礎の高さではない箇所を確認した。

基礎が目視で確認できる範囲で、No.69-59.00～No.71付近において、図の赤で示した位置に基礎があることを確認した。

# 【報告】 A区間にて、基礎位置の高い箇所を確認



No. 71付近～No. 74-39.87 (約560m)

実験条件(上記、横断図)と同様であるため、実験結果より、天端被覆のみを実施する区間とする。

No. 69-59.00～No. 71付近 (約440m)

上図箇所**基礎位置が高いことを確認**。  
この区間について、基礎位置が高いことが予想され、これまでの実験条件と異なるため、**現地確認を含め、検討(実験)を進める**。

事前説明後に、A区間のNo.69-59.00～No.71付近において、基礎の位置が高い箇所を確認した。

他区間の実験からも、基礎位置が、破堤遅延時間に大きく関係することが確認されており、これまでA区間として実験してきた、基礎位置が低い構造とは異なる今回確認された構造の箇所については、改めて、検討する必要があると考えられる。

そのため、今後、基礎の高い範囲を詳細にするため現地調査を実施し、**基礎が高い区間においては、今後、実験を行い、構造決定していくものとする。**